

Introduction

～ まちの人紹介 ～



地域おこし協力隊
(遊休施設有効活用検討支援員)

きくち せいな
菊地 聖奈 さん



「町民の皆さんに気軽に足を運んでいただける場所をつくりたいです」そう話すのは、4月から地域おこし協力隊 遊休施設有効活用検討支援員として、公共施設整備調整室で活動する菊地さん。出身は雄武町で、雄武高校を卒業後、神奈川県立の大学へ進学。卒業後は東京で、宿泊施設の運営や新規立ち上げを行う会社勤務していました。

の実現につながる活動ができる遊休施設有効活用検討支援員を希望しました」と応募のきっかけについても話してくれました。

主な活動内容については「町内の空き店舗の活用方法について提案しています。また、町民の皆さんに空き家や空き店舗について考えていただくイベントの企画も進めています。雄武町のために働けることに、新鮮な気持ちと喜びを感じています」と笑顔で話してくれました。

ほかにも、地域おこし協力隊主催のイベントの企画・準備・運営も行っており「先日、図書館で開催したイースターイベントで作成した『いくらすじ子カード』が好評だったことが嬉しかったです。今後子どもたちの心に残るイベントづくりをしていきたいです」と意欲をのぞかせていました。

菊地さんの今後の活躍に注目です。

雄武町民憲章（町民の誓い）

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生きし、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一 励まし合い、希望と自信をもって、生きがいのある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りと
おすことを誓い合います。

- 一、自然を生かし、住みよい環境をつくります。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくります。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくります。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくります。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和 46 年 3 月 19 日制定

◆編集後記

Editor's note

▼今年も町内小中学校の運動会取材しました。全力で走り、応援し、仲間と力を合わせて競技に取り組む児童生徒たちの姿はとてもまぶしく、気がつけば心の中で応援していました。日頃の努力を見守ってきた先生方やご家族の皆さんは、きっと私以上の感動を味わわれたことと思います。グラウンドに響くスタートの合図に、夏の始まりを感じました。（館田）